

株式会社4°Cホールディングス
(東証一部 8008)

第64期(2014年2月期)第2四半期決算説明会

2013年10月7日

4°C holdings group

I. 2014年2月期第2四半期決算概要と総括

II. 2014年2月期下期重点取り組み課題と施策

III. 第3次中期経営計画の進捗

(株)4°Cホールディングス 代表取締役社長 鈴木秀典

※資料内の数値は百万円未満を切り捨て表示し、百分率は原データから算出しております。

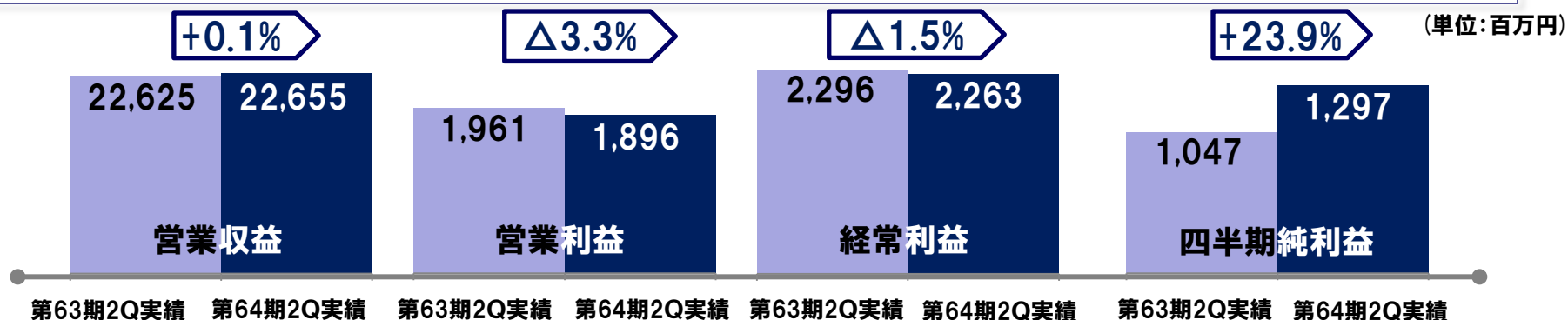
当資料の業績予想に関する記述、及び客観的事実以外の記述に関しましては、当社が現時点で入手可能な情報から得られた判断に基づいておりますが、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの記述のみに全面的に依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。実際の業績は、当社の事業をとりまく経済情勢、市場の動向、為替レートなどに関わる様々な要因により、記述されている業績予想とは大幅に異なる可能性があることをご了承ください。

連結業績の概要

計画通り増収減益。四半期純利益は過去最高益を更新

営業収益 226.6億円(前年同期比0.1%増) 営業利益 19.0億円(同3.3%減)

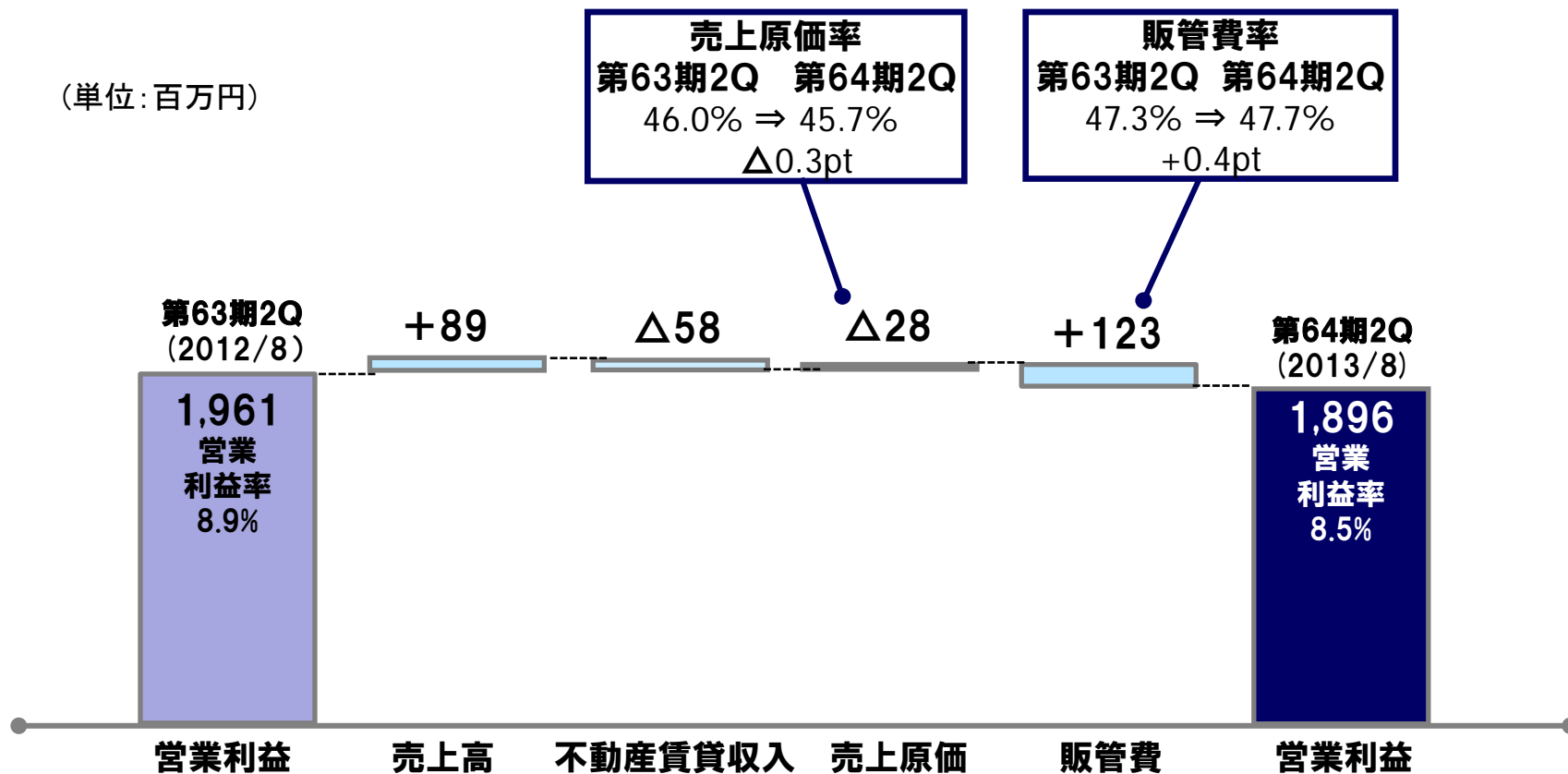
経常利益 22.6億円(同1.5%減) 四半期純利益 13.0億円(同23.9%増)



(百万円、%)	第63期2Q (2012/8)		第64期2Q (2013/8)		第64期2Q (2013/8)		前年同期比 増減(%)	計画比 増減(%)
	実績	(%)	計画	(%)	実績	(%)		
営業収益	22,625		23,000		22,655		+0.1	△1.5
売上高	22,136	100.0	22,553	100.0	22,224	100.0	+0.4	△1.5
売上総利益	11,945	54.0	12,454	55.2	12,061	54.3	+1.0	△3.1
売上総利益率	54.0		55.2		54.3		+0.3pt	△0.9pt
販売管理費	10,472	47.3	11,001	48.8	10,596	47.7	+1.2	△3.7
営業利益	1,961	8.9	1,900	8.4	1,896	8.5	△3.3	△0.2
経常利益	2,296	10.4	2,250	10.0	2,263	10.2	△1.5	+0.6
四半期純利益	1,047	4.7	1,200	5.3	1,297	5.8	+23.9	+8.1

営業利益 19億円 計画通りの推移

(単位:百万円)



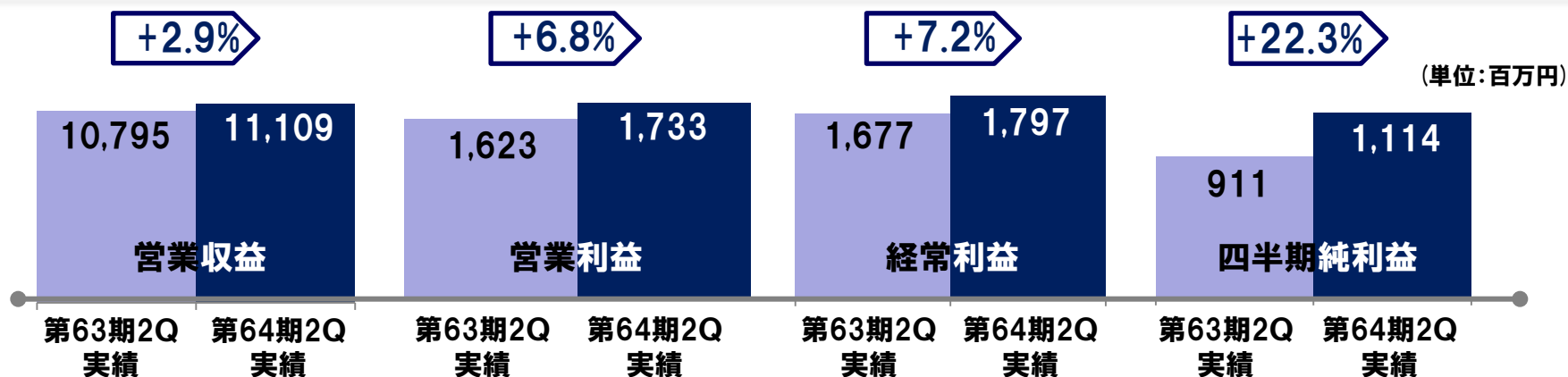
営業利益・経常利益・四半期純利益の推移

(単位:百万円)

段階利益	第63期 1Q期間	第63期 2Q期間	第63期 上期累計 (2012/8)	第64期 1Q期間	第64期 2Q期間	第64期 上期累計 (2013/8)	前年差
営業収益	11,386	11,239	22,625	11,618	11,037	22,655	31
売上総利益	6,073	5,872	11,945	6,169	5,892	12,061	116
営業利益	1,117	843	1,961	1,091	805	1,896	△64
営業外収益	258	98	357	201	174	376	18
営業外費用	13	8	22	5	4	9	△12
経常利益	1,363	933	2,296	1,288	975	2,263	△33
特別利益	—	14	14	—	34	34	20
特別損失	253	108	362	10	71	81	△280
税金等調整前四半期純利益	1,109	838	1,948	1,277	937	2,215	267
四半期純利益	667	380	1,047	827	470	1,297	250

◆ FDCプロダクツグループ

- 増収増益、全ての利益で過去最高を更新
- 4°Cジュエリーのファッションジュエリーが好調
- 「4°CBRIDAL」、「canal4°C」も新規出店に加え、既存店も好調に推移

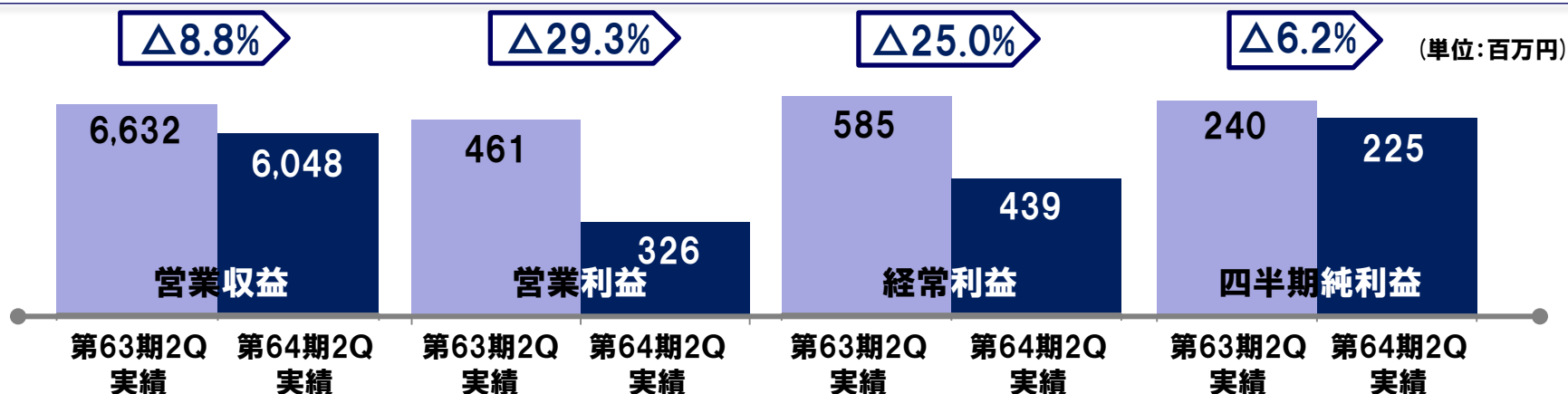


(百万円、%)	第63期2Q (2012/8)		第64期2Q (2013/8)				前年同期比 増減(%)	計画比 増減(%)
	実績	(%)	計画	(%)	実績	(%)		
営業収益	10,795	100.0	11,179	100.0	11,109	100.0	+2.9	△0.6
営業利益	1,623	15.0	1,614	14.4	1,733	15.6	+6.8	+7.4
経常利益	1,677	15.5	1,670	14.9	1,797	16.2	+7.2	+7.7
四半期純利益	911	8.4	957	8.6	1,114	10.0	+22.3	+16.4

(※内部相殺前数値)

◆ アスティグループ

- アパレルメーカー事業はODMを中心に拡大
- 急激な円安による原価の高騰、子会社の整理により減収減益



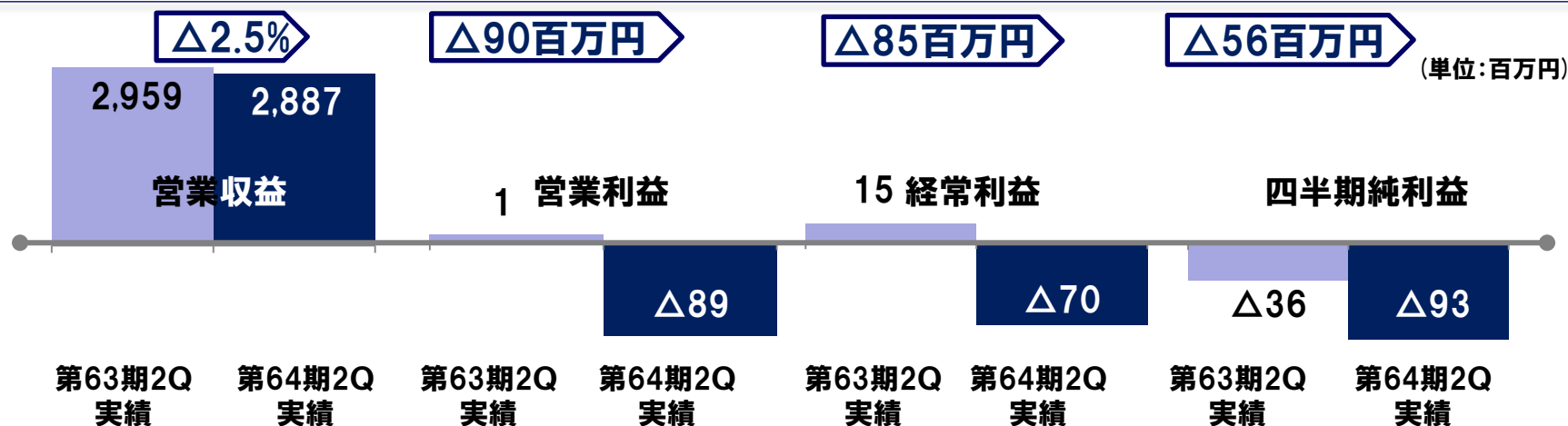
(百万円、%)	第63期2Q (2012/8)		第64期2Q (2013/8)				前年同期比 増減(%)	計画比 増減 (%)
	実績	(%)	計画	(%)	実績	(%)		
営業収益	6,632	100.0	5,960	100	6,048	100.0	△8.8	+1.5
営業利益	461	7.0	354	5.9	326	5.4	△29.3	△7.9
経常利益	585	8.8	456	7.7	439	7.3	△25.0	△3.7
四半期純利益	240	3.6	272	4.6	225	3.7	△6.2	△17.3

(※内部相殺前数値)

セグメント別の概要

◆ (株)三鈴

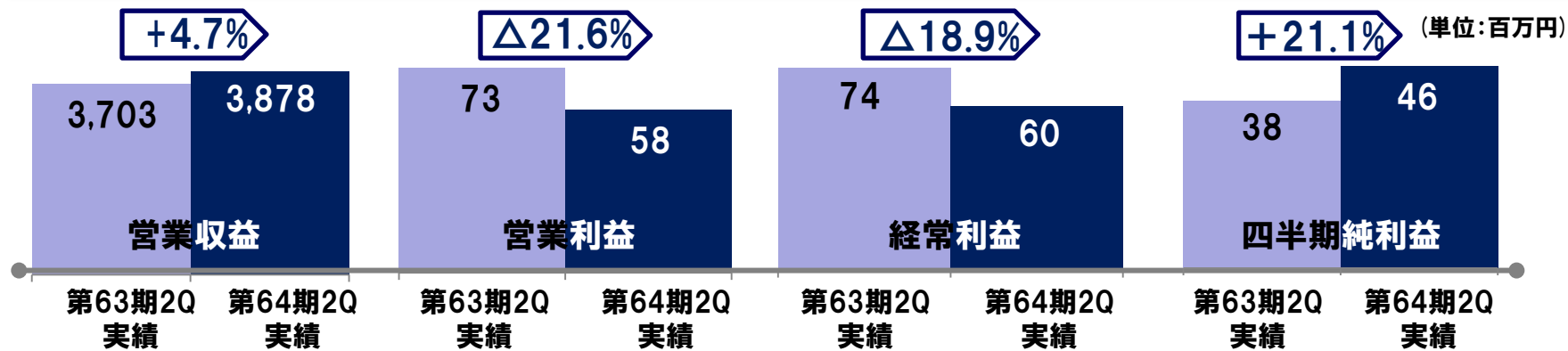
- 基幹ブランド「Rew de Rew」がセール時期に落ち込む
- 「shop DADA」の新業態である郊外型SC店舗が苦戦



(百万円、%)	第63期2Q (2012/8)		第64期2Q (2013/8)				前年同期比・差 増減(%)	計画比・差 増減(%)
	実績	(%)	計画	(%)	実績	(%)		
営業収益	2,959	100.0	3,100	100.0	2,887	100.0	△2.5	△6.9
営業利益	1	0.1	35	1.1	△89	—	△90百万円	△124百万円
経常利益	15	0.5	50	1.6	△70	—	△85百万円	△119百万円
四半期純利益	△36	—	23	0.7	△93	—	△56百万円	△116百万円

◆ (株)アーヂュ

□ コア事業「パレット」が売上拡大も計画は未達



(百万円、%)	第63期2Q(2012/8)		第64期2Q(2013/8)				前年同期比・差 増減(%)	計画比・差 増減(%)
	実績	(%)	計画	(%)	実績	(%)		
営業収益	3,703	100.0	4,049	100.0	3,878	100.0	+4.7	△4.2
営業利益	73	2.0	78	1.9	58	1.5	△21.6	△25.6
経常利益	74	2.0	76	1.9	60	1.6	△18.9	△21.2
四半期純利益	38	1.0	37	0.9	46	1.2	+21.1	+24.3

財政状態、キャッシュ・フローの状況(連結)

総資産556億円、負債131億円、純資産425億円
未払金の増加等で営業CF8億8,400万円増加
フリーCF10億2,100万円増加

財務状況

2013年8月末時点

総資産 556億円	131億円	負債
	425億円	純資産

キャッシュ・フロー

(単位:百万円)	第63期2Q (2012/8)	第64期2Q (2013/8)	差額
営業CF	333	1,218	884
投資CF	△492	△354	137
財務CF	△405	△338	67
フリーCF	△158	863	1,021

四半期純利益は過去最高益を達成

1. FDCプロダクツグループ

⇒ 「4°C」ジュエリー、「4°C BRIDAL」「canal4°C」が好調で、売上高、出店ともに計画通りに推移

2. アスティグループ

⇒ 売上は計画通り推移するも、急激な円安の影響が利益を圧迫

3. (株)三鈴

⇒ 主力ブランド「Rew de Rew」の既存店の売上の前年割れ、および「shop DADA」の郊外型SC向け新業態不振により、減収減益

4. (株)アージュ

⇒ 既存店の好調に加え、前期下期に出店したパレットの新店効果により増収となるも、計画未達により減益

2014年2月期通期業績予想

増収増益、営業利益、経常利益、当期純利益とも過去最高益更新の計画

営業収益500億円（前期比3.7%増）

営業利益47.5億円（前期比10.7%増）

経常利益54億円（前期比10.6%増）

当期純利益30.5億円（前期比9.5%増）

(百万円、%)	第63期(2013/2)		第64期(2014/2)			前期比 増減(%)	
	実績	(%)	期初計画	(%)	修正計画 計画差		
営業収益	48,237		50,000		50,000	—	+3.7
売上高	47,264	100.0	49,114	100.0	49,114	—	+3.9
売上総利益	25,990	55.0	27,410	55.8	27,410	—	+5.5
売上総利益率	55.0		55.8		55.8		+0.8pt
販売管理費	22,673	48.0	23,546	47.9	23,546	—	+3.9
営業利益	4,289	9.1	4,750	9.7	4,750	—	+10.7
経常利益	4,883	10.3	5,400	10.6	5,400	—	+10.6
当期純利益	2,785	5.9	3,050	6.2	3,050	—	+9.5

事業会社グループ別通期業績予想(内部相殺前数値)

(百万円、%)		第63期 (2013/2)	第64期(2014/2)		
		実績	上期実績	通期予想	前期比・差
FDCプロダクツ グループ	営業収益	24,657	11,109	25,820	+4.7
	営業利益	3,780	1,733	4,317	+14.2
	経常利益	3,884	1,797	4,438	+14.3
	当期純利益	2,294	1,113	2,705	+17.9
アスティグループ	営業収益	12,704	6,048	11,773	△6.3
	営業利益	540	326	614	+13.7
	経常利益	794	439	820	+3.3
	当期純利益	326	225	467	+43.3
(株)三鈴	営業収益	6,211	2,886	6,107	△1.7
	営業利益	75	△89	34	△54.7
	経常利益	105	△69	67	△36.2
	当期純利益(損失)	△30	△93	7	37百万円
(株)アージュ	営業収益	7,667	3,878	8,049	+5.0
	営業利益	151	58	155	+2.6
	経常利益	153	60	160	+4.6
	当期純利益	72	45	88	+22.2

(営業収益には不動産賃貸収入・経営指導料含む。)

出退店の状況と計画

計画通りの出店を実施

		FDCプロダクツグループ							(株)三鈴	(株)アージュ	合計
		国内ジュエリー					海外ジュエリー	4°C バッグ			
		4°C	4°C BRIDAL	canal 4°C	その他	計					
第63期 (2013/2)	2Q 期末	93	20	23	17	153	1	27	88	76	345
	期末	92	24	24	20	160	4	28	89	78	359
第64期 上期実績 (2013/8)	出店	1	6	6	1	14	0	0	6	1	21
	退店	4	0	0	1	5	0	0	6	1	12
	2Q 期末	89	30	30	20	169	4	28	89	78	368
第64期 下期計画 (2014/2)	出店	1	1	1	5	8	2	0	2	4	16
	退店	0	0	0	1	1	1	0	2	2	6
	期末	90	31	31	24	176	5	※29	89	80	379

その他：EAUDOUCE4°C、RUGIADA、MAISON JEWELL、JOAQUIN BERAO他

※改装により新たにバッグを取り扱う店舗が増加する見込み

1株当たり年間配当金・自己株式買入額の推移

2014年2月期は25円を予想

機動的な自己株式の買入を実施（2013年2月期は2回実施）

	第63期 (2013/2)	第64期 (2014/2) 予想
1株当たり年間配当金(円)	22	25(うち中間配当12円50銭)
自己株式買入額(百万円)	285	—
総配分性向(%)	32.7	—
1株当たり当期純利益(円)	101.64	111.67

⇒ 配当と自己株式の取得を含めた株主還元を図り、
総配分性向25%を基本とする

- I. 2014年2月期第2四半期決算概要と総括
- II. 2014年2月期下期重点取り組み課題と施策**
- III. 第3次中期経営計画の進捗

景気回復基調の中、安定的成長にむけ、成長エンジン6本柱＋4本柱※の確立に向けて、足元を固める施策を打つ。

※成長エンジン6本柱は後出のP.18をご参照。

そのほかの4本柱とは、「海外事業」「EC事業」「MAISON JEWELL」「deux et deux(ドウエドウ)」

1. 外部環境認識

- ◆ 経済対策、金融政策が好感され、円高是正や株価上昇等で、景気は回復基調
- ◆ 資産効果による高額品の売上好調
- ◆ 個人消費は本格的回復には至らず
- ◆ 2020年のオリンピック東京招致成功による、景気刺激への期待
- ◆ 消費税増税決定で個人消費は先行き不透明

2. 取り組むべき課題

- ◆ 不透明な外部環境のなかで、新規出店や新業態開発、各ブランドの商品開発力の強化により、新しい事業機会を絶え間なく創造
- ◆ ホールディング(持株会社)役員が各事業会社を横断的にマネジメントし、経営の効率化を推進するとともに、ガバナンス体制を強化
- ◆ 5年後の売上高600億円、経常利益75億円、経常利益率10%を見据え、6本柱＋4本柱の成長エンジンを確立する。

2014年2月期重点施策～6本柱の計画と進捗

ジュエリーの3本の柱が、全体を牽引

成長エンジン6本柱の計画と上期の達成率

(単位:百万円)	2014年2月期計画				2014年2月期第2四半期実績			
	売上高	前期比 (%)	経常利益	前期比 (%)	売上高	前期比 (%)	経常利益	前期比・差 (%)
4°Cジュエリー合計	20,141	+6.6	3,797	+14.4	9,080	+10.1	1,725	+23.3
[4°Cジュエリー]	13,720	△1.6	2,514	+1.7	6,117	+2.0	1,062	+4.8
[4°CBRIDAL]	6,421	+29.6	1,283	+51.4	2,962	+31.5	663	+71.9
canal4°C	2,702	+16.9	304	+1.6	1,177	+21.7	138	+9.3
アパレルメーカー事業	5,270	+14.4	291	+14.8	2,682	+10.3	113	△39.3
アパレルSPA事業	6,450	+3.9	140	+33.3	2,886	△2.5	△69	△85百万円
デイリーファッション事業	7,115	+20.6	170	+5.3	3,058	+7.5	63	△25.5
合計	41,679	+9.9	4,702	+13.6	18,885	+8.2	1,971	+8.7

業績牽引ブランドの出店と業績が着実に進展

業績牽引ブランドの計画と上期の実績

	第61期 (2011/2)実績		第62期 (2012/2)実績		第63期 (2013/2)実績		第64期 (2014/2)計画 ()内は上期実績	
	店舗数	経常利益 (億円)	店舗数	経常利益 (億円)	店舗数	経常利益 (億円)	店舗数	経常利益 (億円)
4°C BRIDAL	10	2.8	16	3.7	23	6.3	31 (30)	12.8 (6.6)
canal 4°C	15	1.1	21	2.3	24	3.0	31 (30)	3.0 (1.4)
合計	25	4.0	37	6.0	47	9.3	62 (60)	15.9 (8.0)

◆ 上期振り返り

- 「4°C BRIDAL」「canal4°C」が着実に出店し、業績を牽引
- 店舗の什器一新による高級感の演出で、集客力と「4°C」ブランド価値の向上を追求

◆ 下期重点施策

- 3本の成長エンジン「4°C」ジュエリー、「4°C BRIDAL」「canal4°C」に継続して重点的に取り組む
- 12月のクリスマス商戦に向け、「4°C」ジュエリーの定番商品の品揃え強化と特別限定商品・キャンペーンの新企画に注力
- 前期に引き続き、テレビCMを実施
- ブライダル専門店「deux et deux」の新規出店で、地方の新しいブライダルマーケットを開拓

9月20日、弘前にオープンした「deux et deux」1号店。下期3店舗出店予定、初年度売上高1億円を目指す。



ジュエリーブランドのチャネル戦略をさらに強化

	特長	主な 販売チャネル	2014年 2月期 1店舗当たり 売上高(計画)	2014年2月期の 出店計画数 ()内は上期出店数
	国内ジュエリー ブランドNo. 1	百貨店	1.5億円	2店舗(1店舗)
	ブライダル専門店	路面店	1.5億円	7店舗(6店舗)
	リーズナブルな 価格の普段使いで きるジュエリー	都市型SC	1億円	7店舗(6店舗)
	親から子、子から 孫へと受け継がれ るボンジュエリー	郊外型SC	0.7億円	2店舗(1店舗)
	地方都市型 ブライダル専門店	地方都市	0.8億円	3店舗(1店舗)

◆ 上期振り返り

- 企画・素材提案力向上と新しいマーケットの開拓によるODMのアパレルメーカーは順調に進展
- 一方、想定以上の円安が利益を圧迫

◆ 下期重点施策

- チャイナプラスアゼーズを目指し、バングラデシュやカンボジアに一部の生産背景を移転。生産コストの抑制を図るとともに、為替問題にも対応。
- 大手アパレルやGMS、専門量販店の新規取引先の開拓
- ODMのアパレルメーカー事業の拡大に引き続き注力



◆ 上期振り返り

- 夏の単品強化、カットソーなどの企画商品は、十分な成果を出せず、第2四半期の6月と7月は減益基調に
- 主力ブランド「Rew de Rew」や、「shop DADA」の新業態である郊外型SC店舗が苦戦

◆ 下期重点施策

- 企画の問題を解決するため、MDを変更し商品構成の立て直しを図る
- デザイナーの増員、服飾雑貨企画チームを各ブランドに取り入れてコーディネートのとータルな提案力を強化
- 新規出店を計画していた6店舗のうち4店舗は出店凍結し、経費を削減。既存店の強化に方針を変更



shop DADA店舗



Rew de Rew店舗

◆ 上期振り返り

- コア事業である総合衣料専門店「パレット」の関西ドミナント出店を継続
- 新規出店により増収となる一方、売上が計画未達で減益

◆ 下期重点施策

- 「パレット」の出店拡大による売上増大を最重要課題とし、下期も積極的に出店先の物件を探す
- 実用衣料のPB商品を強化



パレット店舗

- I. 2014年2月期第2四半期決算概要と総括
- II. 2014年2月期下期重点取り組み課題と施策
- III. 第3次中期経営計画の進捗**

第3次中期経営計画の進捗状況①

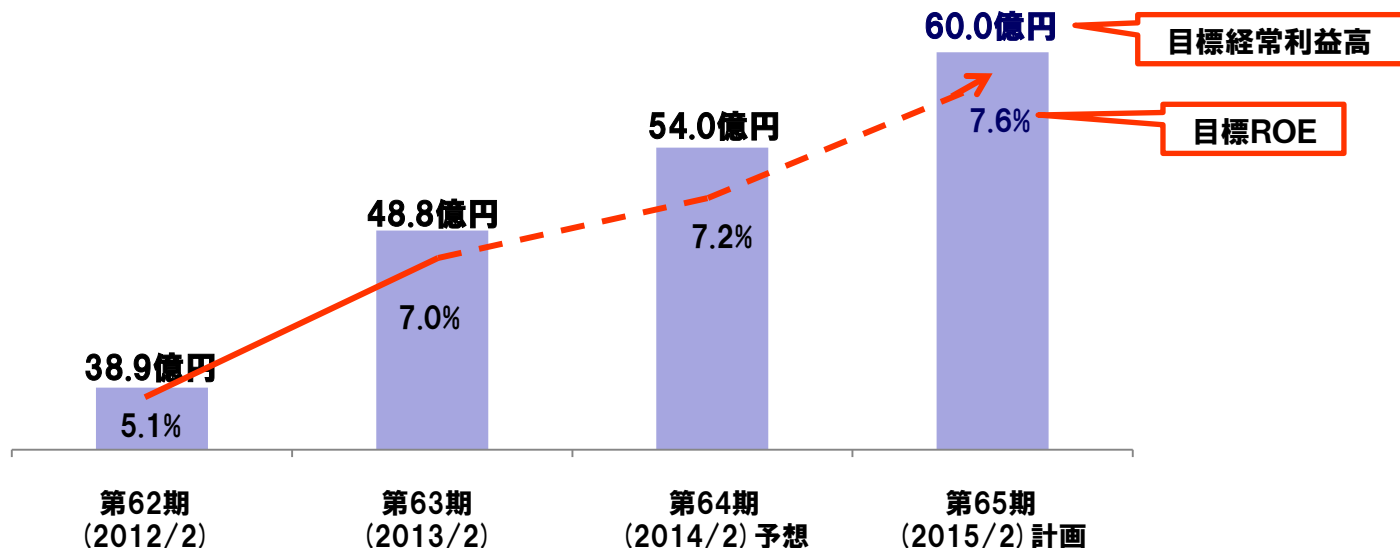
成長エンジンの6本柱プラス4本柱による成長企業に
2018年2月期は売上高600億円、経常利益75億円達成をめざす

数値ビジョン (2015年2月期)

修正目標

連結売上高	530億円
経常利益高	60億円
経常利益率	11.3%
ROE	7.6%

中期業績目標の達成イメージ～経常利益とROE



第3次中期経営計画の進捗状況②

成長分野への積極投資、組織力強化とも着実に実施

	目標	2年目上期の進捗
重点戦略 ～成長分野への積極投資	出店開発 3年間で国内100店舗	予定通りの出店を実施
	4°Cブランド価値向上 3年間で広告販促費約10億円 上積みし、総額約40億円投資	百貨店店舗の什器内プロトを変更
～組織力強化	M&A 自己資金の充実で100～200億 円レベルの案件への投資検討	引き続き検討
	取締役管掌制度の導入 人材育成の強化	海外生産、人材育成で 連携が進む

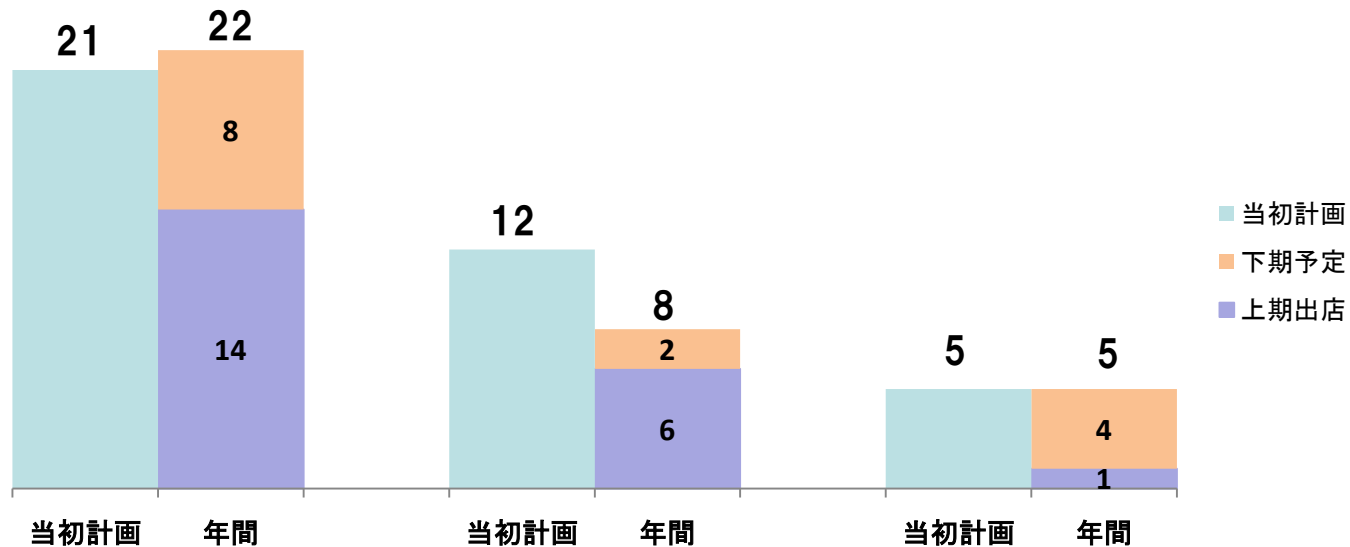
重点戦略 成長分野への積極投資

- 3年間で国内100店舗出店目標⇒三鈴の出店が減少も、拡大継続
- 4°Cブランド価値向上のための広告投資⇒クリスマスに向けテレビCMを実施

FDCプロダクツ新規出店数

三鈴新規出店数

アージュ新規出店数



(単位:店)	第64期(2014/2) 年間出店計画	第64期(2014/2) 上期出店数実績	第64期(2014/2) 下期出店数予定	第64期(2014/2) 年間出店予定数
FDCプロダクツ	21	14	8	22
三鈴	12	6	2	8
アージュ	5	1	4	5

2013年9月1日より、コーポレートブランドの向上を目的に、株式会社4°Cホールディングスに社名変更、新CIを導入。「100年企業」「100年ブランド」をめざすとともに、企業認知度の高まりに応じて、グループでのシナジーをさらに強化。



4°C
holdings group

本日は誠にありがとうございました

本資料ならびにIRに関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

株式会社4°Cホールディングス

業務部 禾本(ノギモト)

TEL 03-5719-3429

FAX 03-5719-4462

E-mail ir-yondoshi@yondoshi.co.jp

※将来に亘る部分につきましては、予想に基づくものであり、確約や保証を与えるものではありません。
予想と異なる結果となる可能性があることをご認識の上ご活用下さい。